

PANDORA I

パンドラ I



「生活感」水崎 野里子

ブックウェイ

PANDORA I

パンドラ I

ブックウェイ

巻頭言

それはもう大昔からきまっているのだ。人間には絶望という事はない。
えない。

人間は、しばしば希望にあざむかれるが、しかし、また「絶望」という
観念にも同様にあざむかれる事がある。正直に言う事にしよう。人間
は不幸のどん底につき落とされ、ころげ廻りながらも、いつかしら一
縷の希望の糸を手さぐりで捜し当てているものだ。それはもうパンド
ラの筐以来、オリムポスの神々に依っても規定せられている事実だ。
楽観論やら悲観論やら、肩をそびやかして何やら演説して、ことさら
に氣勢を示している人たちを岸に残して、僕たちの新時代の船は、一
足お先にするすると進んで行く。(太宰治「パンドラの筐」より)

<発刊の辞>

出帆の日来たる
パンドラ筐に
なにもかも詰め入れ
荒海に乗り出でん
いざ共に 錨を上げよ

Forward

It was decided on since the ancient ages. For humans there cannot be despair.
We humans often are deceived by hope, however, while we have been also
deceived by the idea on despair. I shall tell you frankly. Pushed to fall down
to the bottom of unhappiness to go tumbling around, humans will sometime
find out a thread of hope. It has been a fact established by the gods of Mount
Olimpus, since the Pandora casket.

Our ship for a new age has already sailed out and will have smooth sailing
on the sea, leaving the people behind on the shores. They make speeches on
optimism or pessimism, to show us their special spirits, sometimes perking
up their shoulders.

(Extracted from Osamu Dazai, Pandora Casket)

The day has come
To hoist sails!
Putting everything
Into Pandora casket
We are ready to start

Noriko Mizusaki
水崎野里子

扉 詩

ウベ・ワルター（日本・ドイツ）

<俳句>

Opening Poems

Uwe Walter (Japan/ Germany)

<Haiku>

元戦闘員の 長靴の下 虎杖が光を欲する
under the boot of
returning ex-combatant
a knotweed bud longs for the sun

五波峠の 文化交流会 オスタラ*が 舞い飛ぶ
*オスタラ=ドイツの女神
on the gonami pass
the german goddess Eostre dances
on a cultural exchange program

竹を吹きながら 峠まで 突然 霞の帳が開く
With the sound of a shakuhachi
I walk up the pass
through a misty veil

パンドラ

目次

Pandora

Contents

巻頭言／発刊の辞 *Foreword / For the Pandora 1rst Issue*

扉詩 ウベ・ワルター 俳句

Opening Poems Uwe Walter: Haiku Poems

秋田高敏 *Takatoshi Akita* 8
思いやりの街角 *Charity at the Corner of the Street*

Nobuo Akiba 12
The Place You Don't Go

海外詩人のハイク *Haiku from Overseas* 13
ジャーメイン・ドルーゲンブルート *Germain Droogenbroodt*
春の俳句三作 *Three Spring Haiku*

飯嶋武太郎 *Taketaro Iijima* 14
カンボジア寺子屋視察と世界遺産を巡る旅
*The Visitation on Cambodia: For the Inspection of the Schooling
Institutions and the Travel to the World Heritage Sites*

市川つた *Tsuta Ichikawa* 22
おーい雲よ *Holla! My Dear Clouds!*
カーテン *Curtain*

一木和夫 *Kazuo Ichiki* 26
キリギリス *"Grass" Hoppers*

市原礼子 *Reiko Ichihara* 28
もうひとつの七夕 *Star Festival Once More*

植木信子 *Nobuko Ueki* 32
朝の公園 *Morning Park*

大葉二良 *Jiro Oba* 34
都市の記憶 *Haiku: memory of a city*

岡山晴彦	<i>Haruyoshi Okayama</i>	36
花一匁	<i>A Children's Game for Win & Lose</i>	
コラム	<i>Columed</i> : 水崎野里子 <i>Noriko Mizusaki</i>	38
	<i>Haiku (In English)</i> & 俳句	
金一男	<i>Kim Ilnam</i>	40
三行詩・時調		
	<i>Three Lined Poems: Shi-Jyo</i>	
	雲と星と愛と <i>Clouds and Stars and Love</i>	
	大いなる戯れ <i>Wonderful Sport</i>	
熊澤洋子	<i>Yoko Kumazawa</i>	41
俳句 春鼓	<i>Haiku: Spring Drum</i>	
くろこ ようこ	<i>Yoko Kuroko</i>	42
海	<i>The Sea</i>	
	雨降り <i>Rain Falling</i>	
郡山直	<i>Naoshi Koriyama</i>	46
平和礼賛	<i>In Praise of Peace</i> 解説	
酒井力	<i>Tsutomu Sakai</i>	50
灰降りそそぐ	<i>Volcanic Ashes Falling Down</i>	
左子真由美	<i>Mayumi Sako</i>	52
この夜を	<i>Though This Night</i>	
	つぼみ <i>Buds</i>	
佐古祐二	<i>Yuji Sako</i>	54
朝	<i>Morning</i>	
第一回パンドラ賞受賞作品：		
佐藤文夫『民謡万華鏡 祭りと旅と酒と唄』		56
抜粋・再生復興願う気仙沼の虎舞		

The 1rst Pandora Award—Fumio Sato

*The Kaleidoscope of Japanese Folk Songs: Festivals and Travels and
Wine and Songs*

*Extracted from: For the Revival and Restoration : The Tiger Dance
in Kesennuma*

須藤あきこ *Akiko Sudo* 60
からだのために *For the Human Body*

テレシンカ・ペレイラ *Teresinka Pereira* 62
夜 *Night*
ヴァレンタインの日 *Valentine's Day*

戸邊げんごろう *Gengoro Tobe* 64
川柳：未のワルツ
Senryu or Comical Haiku: Sheep's Waltz

長津功三良 *Kozaburo Nagatsu* 68
時間 *Time*

新谷頼子 *Yoriko Niiya* 70
俳句連作 *Haiku Sequence*

働淳 *Jun Hataraki* 72
仮面 *Mask*
自作絵画

藤谷恵一郎 *Keiichiro Fujitani* 76
そして人 *And a Human*

プリーティ・セングプタ *Preety Sengupta* 78
あなたへの頌歌 *An Ode to You*

松本恭輔 *Kyosuke Matsumoto* 80
＜響きが逢い引き ころろ粹＞

名残柿 八尾おわら唄 歩々爽快

松浦恭子	<i>Yasuko Matsuura</i>	84
五月礼賛	<i>May Worship</i>	

水崎野里子	<i>Noriko Mizusaki</i>	86
三行詩連：城之崎にて	<i>At Kinosaki: the Hot Spring Resort in Japan—In the Haiku Style</i>	

渡辺那智子	<i>Nachiko Watanabe</i>	90
短詩詩連	<i>Short Poems</i>	

安森ソノ子	<i>Sonoko Yasumori</i>	94
自生の薬草	<i>The Wild Medicinal Herbs</i>	

あとがき	<i>Forward</i>	96
------	----------------------	----

秋田高敏（日本・千葉）

思いやりの町角

自分ほど可愛いものはない
衣食住すべてに好みが反映し
満ちたりた生活をと追い求める
そうとしか思えない町角へ
地震災害に遭遇したネパールの人達へ
一円募金をと
少年少女達の呼び声は高く
金の翼銀の翼
東西南北へと羽撃いていく

自分を労り
自分を思いやるように
他者への労りと思いを慈しみ育て
見たことも行ったこともない他国の
悲惨さをテレビで新聞で
人伝えて知り
日曜というとおきの日なのに
小さな手に募金箱を抱えこむ
紅潮した頬にみなぎる光線
太陽はうなづき抱擁する大気
旅行く風は微笑みかける

心のあたたかさは体温計でも
思いやりの重さは体重計でも
愛の深さは物差しでも
はかれないけれど
子供達の心よりも背丈よりも体重よりも
人類愛のあたたかさや重さや深さは
青く澄む地球を丸く包むだろう

Takatoshi Akita (Japan / Chiba)

Charity at the Corner of the Street

“Nothing is so dear as me!” saying they
They pursue for the satisfied life with the best
Selection of clothes and foods and dwellings as they like
I was thinking so of them
But at the corner of the street
Boys and girls raise their voices high
For the one yen campaign to collect funds to aid
The Nepali people who suffered the great damages
By the last earthquakes
As if with golden wings and silver wings
They go fluttering in all the directions

Just like taking best cares of them
Just like thinking of them
They nourished the cares and sympathy to others
When they knew the sad damages in Nepal
On TV or in the newspaper or
From someone who told it to them
Though they have not been to Nepal
They hold up the small funding box in their smaller hands
Even on Sundays in spite of their special days
Full of sun rays are collected on the glow of their cheeks
The sun nods and air holds them
Travelling winds smile to them

Though we cannot measure out
Their tenderness of hearts with thermometers
Their kindness with weighing machines
Their depth of love with scales
The warmth and heaviness and depth of their human love

立ち止まり感心だねとねぎらう人々
有り難うございますとはにかむ子供達
他人の痛みや喜びを
自分の痛みや喜びとして共有出来そうな市民が
そうとしか思えない町角へ広がり始めて来た

Might wrap the round globe which will turn blue and clear

Some people stop to encourage them
They return thanks to them in a kind of shyness
I rejoice to know the citizens are growing larger
Who can share pain and rejoice with others
At the corner of the street: here in Japan

* Translator's Note: Mr. Akita has been engaged in the UNESCO activities for Aiding Asians.

秋葉信雄 (日本・千葉)

Nobuo Akiba (Japan / Chiba)

The Place You Don't Go

I threw my cigarette into your drain
You threw my little pet under the rain
Turtles are standing there nobody knows
People is hanging air somebody shows
God bless you, true
You'll find a few
The moment you'll flow
To the place you don't go

One dog is just walking there with his lord
One cat is stalking mares right with his sword
Horses are biting fare tips by their teeth
Sweet pigs are hiding hair by hands beneath
God bless you, true
You'll find a few
The moment you'll flow
To the place you don't go

The oxen are eating for something else
The cows are beating someone without health
There are too many birds yes in your train
So they are strange creatures that's called red crane
God bless you, true
You'll find a few
The moment you'll flow
To the place you don't go
The moment you'll flow
To the place you don't know

ジャーメイン・ドルーゲンブルート
(ベルギー・ユーロ同盟)

Germain Droogenbroodt (Belgium / Euro)

春の俳句三作

Three Spring Haiku

Fragrance of plum blossoms
suddenly appears the sun
tracing a mountain path

A second life
I would like to live
as cherry blossom

Long conversations
along blooming irises
joy at the roadside

カンボジア寺子屋視察と世界遺産を巡る旅

(3/22～3/27/2015)

飯嶋武太郎

今回訪れたのは、カンボジア東北部に位置するアンコール・ワット遺跡群の観光拠点の町シェムリアップ。市内は道路拡幅の工事がいたるところで行われ、交通量が多いにも関わらず信号の殆どない道を人と車とバイク・タクシーの擦違う喧騒と埃の舞う町であった。

3/23午前中に日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所を訪問した。そこで寺子屋の活動が、カンボジアの歴史や読み書きのできない人たちの教育を行う他に、村人に職業訓練の場を提供し、あるいは寺子屋が村の集会所としての機能を果たしている等、如何に有益に利用されているかの説明をうける。

カンボジア事務所所長に案内されて最初に訪問したのは、シェムリアップから比較的近い寺子屋であった。ここは設立後の年数も経っていることから読み書きのできない大人はいなくなり、小さな子供たちだけが学んでいた。また寺子屋の棟続きに保育園が併設され幼児たちが遊んでいた。

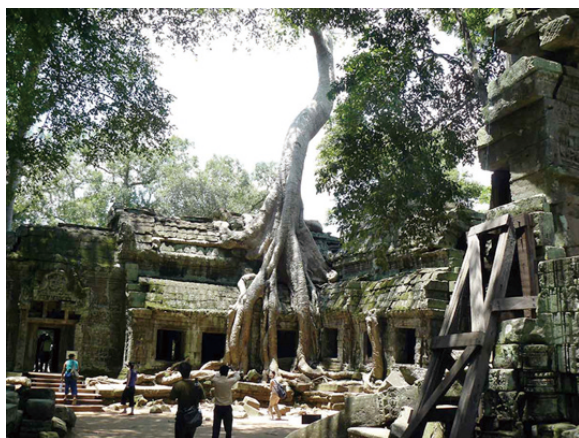
2つ目の寺子屋では、公立の小学校に通えない子供から高校生ぐらいの歳の離れた子供たちが一つの教室で学んでいた。教科書はクメール文字の文章と簡単な算数の問題が学べる一冊の緑色の表紙の本であった。書棚にはクメール語で書かれた日本の童話「桃太郎」と「一寸法師」が並んでいた。教室に座った子供たちの目は学ぶことに真剣で目が輝いていた。将来何になりたいですかという質問に対して一人の少女が、「テレビドラマの脚本家になりたい」と言ったのには感心した。農村は電気が普及していないところが多い。例えば電気が通っていてもテレビ・冷蔵庫・洗濯機は高く買えないし、テレビのない家が多いはずなのだが、この少女はテレビを見たことがあるのだろう。

3/24ロハル村のロハル寺子屋を訪問。ここは今年完成したばかりで、実質的にはまだ運営されていなかった。代表者を誰にするか、教師はどうするか、我々の訪問に合わせて大人たちが集まり話し合いをすることになっていた。寺子屋入口の壁に、この寺子屋をつくる際に援助された日本全国のユネスコ協会名の入った鉄版のプレートが掲げられている。プレートには、成田ユネスコ、富里ユネスコ、佐倉ユネス

コ、八街ユネスコ、四街道ユネスコの名前が記されていた。我々の前で話し合わされたのは、今困っている問題は何か、どう解決するか、ということであった。一番の問題は水であった。2 kmも離れた沼から毎日水を汲んで来なければならない。水汲みは子供の仕事なので、5 kmも離れている金のかかる公立の小学校にはやれない。井戸があればいいのだが。ということであった。水の次は電気になると思うが、この村には電気が通っていないので電気を知らないから電気があったらどれだけ便利な生活ができるかという概念が全くない。それとここの村人の文盲率は大人で50パーセントぐらいある。大人が100人ぐらい集まって話し合いをして、読み書きできない人は手を挙げてくださいと言ったとき、約半分ぐらいの人が手を挙げたのだ。中には50歳ぐらいと思える人が何人も挙手をしたのには驚いた。通訳のホンさんに聞いたら、ポルポト政権時代にちょうど小学校に通う年代だったから学校で勉強できなかったんですという。

ポルポトは、知識のある人から殺したので学校の先生はみんな殺されて、内戦が終わっても教える人がいなくなってしまったという。学校に行けない貧しい村の子供たちに寺子屋という学ぶ場所を造ってくれた日本ユネスコ協会の皆様に本当に感謝しています。とホンさんの偽らない言葉である。

3日目の午後ベンメリア遺跡を見学。この遺跡は修復が全くなされておらずガジュマルの根に浸食され破壊・倒壊した石が遺跡周辺にゴロゴロと積み重ねられていた。修復の終わった遺跡はアンコール・ワットだけで手を付けていない遺跡がほとんど。



ガジュマルの根が石組みの間で成長し、破壊が進行中。一部修復されているが、大半がそのままの姿で残されている。(写真は、タプロム遺跡)

タプロム遺跡

4 日目

バイヨン・インホメーションセンターで簡単なバイヨン寺院の解説を受ける。

バイヨン寺院に到着して、バイヨン寺院の修復にかかわっているJSTの石塚さんからバイヨン遺跡にかかわる説明を聞いた。

バイヨン寺院はクメール帝国のもっとも栄えた時代の王ジャヤヴァルマン7世によって建立された。中二階の回廊の壁にベトナムに栄えたチャンパ王国とクメール帝国のすさまじい戦いの壁画が彫られている。特徴的なのは尊顔という大きな顔が中二階の塔に彫られていることだ。この顔は観世音菩薩とジャヤヴァルマン7世の顔が一体になったものだという。ここは今修復が行われており、日本の石工の指導を受けたカンボジアの青年たちが修復に取り組んでいる。

アンコール (Angkor) とはシェムリアップを中心とする地域名で西暦802～1431年の600年間以上栄えたアンコール王朝の名前。アンコールとは、都市という意味。

アンコール・ワット (Angkor Wat)、最大の寺院の固有名称でワットは寺院という意味。アンコール・トム (Angkor Tom) 大きな都市と言う意味で、王宮等首都機能のあった町。バイヨン (Bayon) 寺院は、アンコール・ワット遺跡群の中心的寺院。

4 日目

カンボジアシルクを作る素晴らしい日本人 (森本喜久男氏67歳) を訪問。彼は元京都の友禅染の職工であった。彼はカンボジアの伝統的絹織物の復活を成し遂げた。

シェムリアップから車で1時間ぐらい離れたところに彼の村があった。カンボジアの蚕で糸を作り、カンボジア中から機織りのできる老女を探し出し、彼女たちを教師にして若い娘たちに教え高級なカンボジアシルクを復活させた。村のなかったところに23ヘクタールの桑畑と従業員250人が生活できる村と機織り工房を作ったのである。